

1 区学習状況調査の結果から

		2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
国語	強み	3観点で、目標値を上回っている。	全観点で、目標値を上回っている。	4観点で、目標値を上回っている。	全観点で、目標値を上回っている。	「読む力」が、目標値を上回っている。
	弱み	「読む力」が目標値より1.3ポイント低い。		「話す力・聞く力」が目標値より2.0ポイント低い。		4観点で、目標値を下回っている。
算数	強み	「数量や図形についての知識・理解」が、目標値まで0.3ポイント。	2観点で目標値を上回っている。	2観点で、目標値を上回っている。	「算数への関心・意欲・態度」が、目標値まで、0.9ポイント。	
	弱み	全観点で、目標値を下回っている。	「算数への関心・意欲・態度」が目標値より4.9ポイント低い。	「算数への関心・意欲・態度」が、目標値より0.9ポイント低い。	全観点で、目標値を下回っている。	全観点で、目標値を下回っている。
理科	強み			「科学的な思考表現」が目標値まで4.4ポイント。	「観察・実験の技能」が目標値を上回っている。	
	弱み			全観点で、目標値を下回っている。	3観点で、目標値を下回っている。	全観点で、目標値を下回っている。
社会	強み			全観点で、目標値を上回っている。	2つの観点で、目標値を上回っている。	各観点の目標値までのポイント差は、2.1～4.1と他の教科より少ない。
	弱み				「観察・資料活用の技能」が、目標値より4.5ポイント低い。	全観点で、目標値を下回っている。
意識調査より 全体	▼週あたりの家庭学習の日数では、3年生以外が全国を下回っている。○家で授業の予習・復習をする児童の割合は、5年生が高い。▼テストの見直しは、6年生が低い。○ノートは、4・5年生の意識が高い。 ※（ ）内の数字は全国の%					
	家で週に何日ぐらい勉強しますか（だいたい毎日）					
		38.6%(58.4%)	55.2%(55.1%)	34.2%(57.5%)	58.0%(62.3%)	47.9%(63.8%)
	家で、授業の予習や、復習をしていますか（いつも、だいたい）					
			41.4%(45.2%)	46.9%(42.8%)	60.3%(48.9%)	32.3%(47.9%)
	テストで間違えた問題は後で見直していますか（いつも見直している）					
		63.6%(56.4%)	54.0%(52.1%)	39.2%(40.5%)	44.3%(41.5%)	22.9%(41.5%)
	ノートは丁寧に書いていますか（高学年：工夫して書いているか）					
		60.9%(71.8%)	77.2%(70.0%)	76.1%(72.4%)	62.5%(71.8%)	
各学年		○他者からの評価 ▼友達のささえ ▼規範意識 ▼学級の絆	○自己認識全項目 ○社会性全項目 ○学級環境全項目 ○生活・学習習慣全項目	○自己認識6項目 ○社会性3項目 ○学級環境3項目 ○生活・学習習慣全項目 ▼充実感と向上心 ▼社会参画 ▼いじめのサイン	○自己認識全項目 ▼規範意識 ▼思いを伝える力 ▼社会参画 ▼学級の絆 ▼いじめのサイン ▼生活習慣 ▼学習週間	

2 調査結果のまとめと改善策

調査結果のまとめ	改善策
① 平均正答率は、全学年・全教科で全国平均を下回った。特に、6年生の学力ほどの教科も墨田区の平均正答率を5ポイント以上、下回っている。	① 学習に向かう意識・意欲を高め、集中して学習に取り組み、自力解決をすることで達成感や成就感を味わい、学習の楽しさを実感できるようにする。
② 国語では、3年生以外「関心・意欲・態度に」について課題がある。	② 全教科を通して国語力に着目し、話をしっかり聞く活動や、文をじっくりと読む活動の時間を確保する。
③ 社会は、目標値との差が少ない。	③ 昨年度の校内研究の成果か今年の学習状況調査の問題が改善されたか、よく吟味する。
④ 算数では、各学年「数学的な考え方」に課題があり、「関心・意欲・態度」も低くなっている。	④ 課題を提示し、しっかりと理解させた上で、自分の力で問題に直面する（自力解決型）授業形態にする。導入場面では、児童が興味・関心を引く授業展開をするとともに一人一人の課題に沿った支援を講じる。少人数指導では、個に応じた指導の充実を図るとともに自力解決力の育成を図る。
④ 「数量や図形の知識・理解」が弱い。	⑤ 数量・図形など体験できる授業の計画を立て実施する。
⑥ 昨年度の課題であった理科の学習で「観察・実技の技能」の伸びがみられた。	⑥ 理科室の整備を行い、すべての児童が実験や観察に取り組めるようにする。また、理科学習を楽しくするために講師を活用する。
⑦ 理科については、全学年低いレベルになっている。特に「自然事象についての知識・理解」の領域が各学年課題になっている。	⑦ 観察・実験の実技を伴う学習において、目的意識をもたせ、発見する喜びがもてる授業を展開する。ICTを活用し、映像や画像で児童の知識・理解を定着させる。
⑧ 意識調査から、家庭学習習慣の定着率が低い。	⑧ 家庭学習習慣の習慣化を一層推進するため、保護者会などで啓発を行う。
⑨ 学習に対する達成感や成就感が低く、進んで学習しようとする意欲・態度が弱い。	⑨ 個の能力に応じた課題を設定し、基礎基本の学習の定着を図ることで、「できた」「分かった」という達成感や成就感を味わえるようにする。

3 後期に重点的に取り組むべき課題

① 基礎学力を図るために授業と家庭学習の連携を強化し、年3回の「家庭学習週間」を設定し、家庭学習の習慣化を図る。
② 算数科では、9月以降に4月から7月までの学習に関する「ふりかえりシート」及び「東京ベーシック・ドリル」を活用し、基礎基本の定着を図る。
③ 理科では、理科講師と連携し、事前の準備や授業でのフォローにより、理科への興味・関心を高め、学習内容の定着を図る。特に、5・6年においては、ICTを活用した授業を計画的に実施し、実感を伴った理解を深める。
④ 二寺学習スタンダードをもとに、学習に向かう姿、集中して学習に取り組む姿をつくる。自力解決をさせ、「できた」「分かった」達成感や成就感を通して、学習の楽しさを味わわせる。
⑤ 校内研究において、外国語活動と各教科等の関連を図り、児童相互の学び合いやコミュニケーションを豊かにする。
⑥ 各教科等において一単位時間の中でねらいと習得すべき知識・技能等を明確にし、学習の振り返りを徹底する。
⑦ 出前授業や講師を招聘した体験的な学習を実施し、自力解決的な学習を一層充実していく。

4 設定した目標を達成するための具体的な取組

(1) 日常の指導の充実のための取組

- ① 研究の日常化と個に応じた指導の充実
ア 校内研究を今まで以上に充実させ、研究成果が日頃の授業実践に生きるよう「研究の日常化」を実現する。
イ 中・高学年の少人数指導を充実させ、D層以下の児童には、支援員等を配置して個に応じた指導を充実させ、基礎学力の向上を図る。
ウ 授業の導入や展開・まとめ等においてICTを活用し、プロジェクター等で映像や画像を積極的に取り入れ工夫することで、学習意欲の向上と学習内容の定着化を図る。
- ② 学び合い活動を多く取り入れ、学習意欲を高める。
ア 自力解決学習や体験学習を多く取り入れ、児童が自ら課題を設定し、自力解決を通して、自ら考え判断できる能力の育成に努める。
イ 各教科等の学習において、学習の成果を発表する機会を設定し、楽しさとやりがいを感じながら学習を進められる環境作りに努める。
ウ 授業や生活での自己のふりかえりを実施する。
- ③ 年間2回、読書月間を設定し、読書の充実を図る。
ア 学校図書館の整備とともに読書活動の充実に向けた環境を整える。
イ 朝学習での読書活動の定着を図る。
ウ 保護者など地域人材を活用した読み聞かせや縦割り班での読み聞かせを充実し、読書習慣の定着を図る。
エ 図書館司書と連携し、百科事典オリエンテーションなどの調べ学習を実施する。

(2) 自主的な学習を推進するための取組

- ① 家庭学習の習慣化を図る。
ア 朝学習の時間を確保し、基礎基本事項の意図的・計画的な指導の徹底を図る。
イ 年3回の家庭学習週間を通して、家庭学習の習慣化を図る。また、自学学習ができるように指導の徹底を図っていく。
ウ 放課後学習教室・土曜授業・夏季学習教室のさらなる充実を図る。
エ 算数科の授業の導入時に四則計算等のドリル学習等を行い、基礎学力の定着を徹底する。
オ 放課後学習と連携し、二寺テストでの課題（四則計算、小数、分数の計算）を確実に定着させる。
カ 国語、算数の基礎基本の定着を図るため、年3回二寺テストを実施する。また、言語についての知識・理解・技能向上に向け、漢字検定の受験を全校に広げていく。
- ② 「できた」「分かった」が実感できる授業を推進する。
ア 学習環境の整備を徹底する。
イ 児童アンケートを年2回実施し、授業に対する評価を踏まえ、授業改善を図る。

5 設定した目標の達成度を測るための指標

(1) 日常の指導の充実のための取組

- ① 研究の日常化と個に応じた指導の充実
ア 外国語活動と各教科等の関連を図り、授業研究を年4回以上実施する。
イ 少人数指導において、児童の興味・関心を高める教材を提供し、支援員の配置による個に応じた指導を工夫する。
ウ 理科の授業でICTの活用率を20%向上する。
- ② 学習意欲の向上
ア 二寺学習スタンダードに基づき、一単位時間の流れを明確にし、課題解決型学習を行う。
イ 各学年において、他学年や地域・保護者と連携して、発表の機会を年2回以上設定する。
ウ 自己のふりかえりを踏まえ、児童のよさを認め、励まし、肯定的な言葉かけや指導を行う。
- ③ 読書活動の充実
ア 図書館司書を中心に学校図書館の整備、本の配置の工夫、本の紹介ポップなどを計画的に実施する。
イ 毎金曜日に朝読書を実施する。
ウ 地域人材の活用を推進する。
エ 3年生以上の学年の年間指導計画に、図書を活用した学習を位置付ける。

(2) 自主的な学習を推進するための取組

- ① 家庭学習の習慣化
ア 週3回の朝学習を実施する。
イ 家庭学習の習慣を徹底するための保護者啓発資料を年2回作成する。
ウ D・E層の児童に対して、保護者の理解と協力を得て、学習教室への参加を促す。
エ 基礎学力の定着に向け、週1回以上、25（100）マス計算を実施する。
オ 評価テストで70%の児童が平均点以上とれるよう、二寺テストの問題や東京ベーシック・ドリルを活用し、学習内容の定着を図る。
カ 年3回の二寺テストの結果を分析し、個に応じた指導の充実を図る。
漢字検定の受験率を20%向上させる。
- ② 「できた」「分かった」が実感できる授業
ア 教室の掲示を工夫し、児童が落ち着いて学習に集中できる環境を整える。
イ 前期児童アンケートにおいて、「授業が分かった」「授業が楽しい」の授業満足度に関する項目を10%向上させる。

